

平成 27 年 5 月 14 日

私は、平成 25 年 5 月、海洋会横浜支部長に就任して 2 年間、日本に大切なものは海事であることを、一般社会の皆様に分かって頂けるよう努力してまいりました。

幸い、この 2 年間、日本を取り巻く経済環境は好転して、大企業のみならず業績は堅調であり、国民所得が上昇傾向です。海事に対する理解も深まりつつあると実感しています。

思えばいろいろな事件がありました。

日銀の異次元緩和、ウクライナ紛争とマレーシア航空機撃墜、イスラム圏での内戦、衆院選挙で自民党の大勝、消費税増税、御嶽山の爆発、小保方さんのスタッフ細胞、キューバと USA の和解。

事故も絶えません。

インド洋ではコンテナ船沈没、マレーシア航空機の行方不明、東シナ海でセウォル号沈没。

この状況下で私が支部長を退任する決意をしましたのは、私事ではありますが、現在私が従事している東京湾の水先人会に対して、公正取引委員会から業務改善命令が発せられたことにあります。海洋会横浜支部を代表する私が国から指弾を受けることは望ましくありません。

幸い、横浜支部には人材が集い、後継者は銀河の星ほど居られます。中でも河原 健さんは、航海訓練所では海技者の教育、トルコ共和国では海事大学での国際貢献、横浜の帆船・日本丸、富山の帆船・海王丸の維持に邁進され、退官後は日本タグ協会専務理事として全国の港湾に精通し、その傍ら、横浜支部の常任委員長として海洋会活動に献身して頂きました。私は、同期の河原さんに相談し、ご理解を得るのに 3 か月かかりました。

今年は富士山、富岡製紙工場に続き、明治日本の産業革命遺産が世界文化遺産に登録されそうです。更に、2020 年の東京オリンピックに向け、スポーツ選手のみならず、無人自動車や無人コンテナターミナル、リニア鉄道開通等着々と社会インフラの充実が進んでいるようです。

横浜港の帆船日本丸が世界遺産になり、海洋会館が日本遺産に登録されるのも夢ではありません。海洋会横浜支部は不滅です。

それを担われる次期支部長・河原 健さんをご紹介します。

以上